

## 第 1 回東浦町総合計画審議会 会議録

会 議 名	第 1 回東浦町総合計画審議会	
開 催 日 時	平成 30 年 4 月 27 日（金）午後 1 時 30 分から午後 3 時まで	
開 催 場 所	勤労福祉会館 会議室 1	
出 席 者	委員	<p>会長</p> <p>千頭 聡</p> <p>職務代理</p> <p>久米 弘</p> <p>委員</p> <p>山下 享司、米村 佳代子、久米 賢治、竹田 正巳、加藤 龍雄、神谷 英一、小山 真弓、杉浦 義治、鈴木 鑑一、田島 由美子、都筑 一男、外山 淳恵、成田 賢治、成田 盛雄、新美 努、二宮 立美、間瀬 宗則、水野 博隆、水尾 衣里、祖山 薫、戸張 里美、野村 雅廣、米島 竜雄</p>
	事務局	<p>町長、企画政策部長、企画政策課長、企画政策課主幹、企画政策課課長補佐兼企画政策係長、企画政策課主査、企画政策課主事 2 名、第 6 次東浦町総合計画策定支援業務受託業者 2 名</p>
議 題 (公開又は非公開の別)	<p>1 町長あいさつ</p> <p>2 委嘱書交付</p> <p>3 審議会会長及び職務代理の選任について</p> <p>4 諮問</p> <p>5 総合計画策定の経過報告及び審議会の運営について</p> <p>6 議事</p>	

	<p>(1) 基本構想について</p> <p>(2) 総合計画審議会における部会構成について</p> <p>(3) 部会長、部会長代理の選任について</p> <p>7 その他</p>
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	—
傍聴者の数	4名
審議内容 (概要)	議題の審議内容は、別紙のとおり
備考	

## 【議事要約】

### 開会

事務局	(開会、資料の確認)
-----	------------

### 1. 町長あいさつ

町長	<p>昨年度町民 4000 人を対象とした住民意識調査や団体ヒアリング、まちづくりワークショップ、若者会議を通して意見を伺った。</p> <p>今回の総合計画は 20 年後を見据えている。今後、高齢化、人口減少の影響が顕著に現れ、また、道路、土地利用等は計画から事業開始まで 20 年程度はかかることから、20 年間の計画期間とし、第 5 次総合計画から前倒して策定している。</p> <p>人口が減る環境の中でもやっていくためにはどうあるべきか考えていくことが重要である。</p> <p>豊かな自然環境と居心地のよい暮らしの場、働く場、価値を創造する場を共存させるためにはどうすればいいのか、様々な角度から検討できればと思う。今回は若者の意見を伺う場として若者会議を実施した。まちづくりワークショップでもそうだが、人と人のつながりを意識するような意見が多かった。住民自治、互いに顔が見えるまちづくりということははずせない。</p> <p>本日は忌憚のない意見や感想をいただきたい。</p>
----	---

### 2. 委嘱書交付

	(各委員の席への配布をもって委嘱書交付とする)
--	-------------------------

### 3. 審議会会長及び職務代理の選任について

事務局	会長の選出方法は、審議会条例第 3 条第 1 項で、委員の互選により定めるとあるため、推薦をお願いしたい。
委員	日本福祉大学の千頭委員を推薦する。
(一同)	異議なし。
事務局	それでは審議会会長を千頭委員とする。
会長	(自己紹介)
事務局	職務代理の選任は審議会条例第 3 条第 3 項で、会長から指名するとあるため、指名をお願いしたい。
会長	久米委員を指名する。
(一同)	異議なし。

### 4. 諮問

	(町長から会長へ諮問)
--	-------------

## 5. 総合計画策定の経過報告及び審議会の運営について

事務局	(資料説明)
会長	質問等あるか。
(一同)	(特になし)

## 6. 議事

### (1) 基本構想について

会長	事務局より説明をお願いする。
事務局	(資料説明)
委員	P9に人口見通しがあるが、資料として、周辺自治体の人口推計を提示していただきたい。また、平成28、29年度の月末の人口動態を広報で見ると平成29年度は毎月女性が減っている。人口が減少している原因等についてどのように分析しているのか伺いたい。
会長	その他、人口に関する部分で意見等あればお願いしたい。
委員	国民健康保険の関係で話を伺ったところ、国としては公には10年先しか推計は出せないということであり、10年後以降は、各自治体が推計するとのことである。状況をしっかり把握することが重要。
委員	東浦町として限られたキャパシティの中でも、住みたいと思えるような夢のある総合計画とするべきである。
事務局	周辺自治体の人口推計については次回までに用意する。 推計方法については、コーホート要因法を使用しており、国勢調査を行なった、平成12年～22年の3回推計をしているが、数値としては-1.3～+2.7であり大きな乖離はないことから、今回も同じ推計方法を使用している。広報で出されている人口は住民基本台帳を基にしているものであり、人口減少の分析、傾向としては自然減、社会減とはなっているが、直近数ヶ月連続して減っている状況の要因としては転出者が多く転入者よりも上回る時期であると考えている。
会長	今後将来の人口を増やしていくよう、将来像を打ち出していくことはできないか、という意見もあったと思うが、事務局としてはどう考えているか。
事務局	事務局としては出生率を高めたい、転入者を増やしたいと考えている。しかし、町での出生率を高める取り組み、転入者を増やす取り組み以外の部分では、生産緑地制度で農地緑地税率が2020年に優遇されるとのことであり、都市部の農地や緑地が宅地として供給されるということが考えられるため、名古屋市のベッドタウンの位置づけである東浦町では、人口を大幅に増やすという数字を打ち出すことはしていない。
委員	人口に関して、現実的に5万人程度住んでいる状況であるが、目標人口が消極的なイメージである。また、P7第2章「あるものを活か

	<p>したまちづくりをします」の表現は良いと思うが、景観についての記載の部分では違和感がある。身近にある良好な景観を守るという点について、自然については良いが、景観計画では市街化区域の中にある、坂道、路地を活かしていくとある。今後、安心安全なまちづくりを目指す中で、狭い路地を本当に活かしていいのかは疑問である。今後計画を進めていく中で具体的に考えるべきであり、この部分でこのような記載をして良いのか。</p> <p>P10「将来の土地利用のコンパクトなまち」であるが、コンパクトなまちづくり計画をみると、もうすでにコンパクトになっていると評価されている。さらに集約する必要があるのだろうか。多くの方が丘陵地に住んでいる中で、鉄道駅に集約という表現になっているのは違和感がある。コミュニティバス等の公共交通機関を充実すれば、新たなハード整備をする必要は無いのではないか。</p> <p>「最適な公共施設のあり方を目指します」とあるが住民サービスの低下に繋がらないように留意すべきであるが、その表記を追加してはどうか。</p>
事務局	<p>コンパクトなまちづくり計画では、生活利便性について良好な都市であると評価されている。しかし、一部の地域では徒歩圏内に商業施設等が無いなどカバーできていない。今後の開発では水準を落とさないようにし、また、不十分な部分についてはコミュニティバス等を充実させ、鉄道駅等の拠点へ生活圏を繋げる考え方を持っていきたいということである。</p>
委員	<p>1つ目は計画期間についてである。世界は大きく変化し続けている。特に環境、地球温暖化対策は大きな課題となっている。2019年6月には大阪でのG20で国際公約を示すこととなっている。これは国の方向性を定め、個人のライフスタイルを左右する時代の大きな転換点である。当初よりも早めた策定となっているが、そのあたりの国の方向性を踏まえた計画とするべきではないか。</p> <p>2つ目、長期的な視点を持った計画として、科学技術の革新についても目を向けるべきである。現在インターネットが広く普及した情報社会となっている中で、ソサエティ5.0と言われる「現実社会」と「バーチャル社会」を融合させた質の高い生活を送ることができる人間中心の社会を目指す考え方もある。町としても積極的に新しい技術を導入し、行政としての業務改善やサービス向上のもと町民へ質の高い生活環境を提供するというコンセプトとして打ち出していただければ良いのではないか。</p> <p>3つ目、町全体でPDCAサイクルが回っていないのではないかと思う。現計画の評価、取り組みの反省点等を踏まえて計画立案をしていくべきだと思う。</p>

事務局	<p>1つ目について、基本構想を20年とした点について、住宅整備や道路整備等については、10年以上を要するものが多く、計画期間内に完結しないものが多い。人口減少については、年少人口、生産年齢人口が減少しながらも老年人口が増える第1段階、老年人口も減少する第2段階があると考えている。東浦町の人口推計をみると21年後あたりに老年人口が増えるピークを迎え、その後どの年代も減少するため、20年という長期の計画期間とすることが適切であると考えている。基本構想については、あくまでまちづくりの理念や考え方を示すもので、具体的に分野ごとに方向性を示していくのは基本計画である。これまでは、計画期間を10年間としていたが、社会環境の変化に対応できるよう5年間としている。</p> <p>2つ目について、科学技術を取り入れる点については、個別の技術が実用化される年次が予測できない部分もあり、具体的な記載はしていない。最新技術を積極的に取り入れることによる行政サービスの改善、住民の生活環境の向上へ繋げる点については表現も含めて検討したい。</p> <p>3つ目、PDCAサイクルの点は、次回以降に示す基本計画では現行の計画による現状、課題を踏まえた方向性を示していく。</p>
委員	地球温暖化対策などについては記載しないということによいか。
事務局	P10「持続可能なまちづくりを目指します」という部分について、具体的な記載は、基本計画で検討したい。
委員	町中を歩いてみると空き家が多いことがわかる。一見、景観は町外から来た人から見ると心が和む良い景色だとは思いますが、住んでいる人にとっては生活しにくい。住みやすいまちにするために道路を広げることにより、危険な地域になる懸念がある。コミュニティの代表としても住んでいる人の意向が掴めれば良いかと思う。
委員	人口のグラフをみると高齢者が増えるところがあるが、高齢者でも技術や経験を持った元気な人がいる。人口が減っても、やりがい、生きがいを持てるような場をつくればよい。ボランティアだけではなく、地域の会社のような小さなビジネスができると、地域で活躍できる。P7にも含まれているとは思いますが、もう少し色濃くあると良い。
委員	昔からある近所の付き合いに煩わしさを感じる人がいる。近所付き合いのような小さい単位での絆があると良い。
委員	地震による津波が来るエリアには住宅を建てないというようにし、住宅区域に線引きをしてはどうか。東浦は土地が安く、近年住宅が多く立っていることに疑問を抱いている。
委員	<p>20年経てば世の中が変わる。PDCAサイクルをしっかりと回すことが重要である。</p> <p>アンケートでは東浦に住む理由として住宅が安いとある。併せて、</p>

	<p>緒川に葬儀場ができた。石浜にもでき、色々な面で充実している。介護施設で話を聞くと、数十年前は家族が世話をしていたが、施設に入ることになり寂しいという話も聞く。今後町とも協力して生活を充実させていければ楽しい人生になるのではないかと思う。</p>
委員	<p>P3「「ちょうどいい」があります」とあるが人口減少の傾向のもと、東浦町のあるべき姿、様々な分野での理想の姿を示したほうが具体的な方策が出るのではないか。もう少し理想の姿を出していければ良い。</p>
事務局	<p>次回、出された意見を基本構想に反映する部分、基本計画で検討する部分に整理し、示したい。</p>
委員	<p>これは基本構想であり、今後の東浦町をどのようなまちにしていきたいかベクトルを示すものである。東浦町のことを深く知ってはいないが、東浦町が20年先を見据えて基本構想をつくと謳っていながらも、なぜ発想やスタンスがこれまでの延長にあるのか疑問である。</p> <p>人口問題については東浦町の問題だけでなく、日本の人口減少は止めようがない。10年、20年前の議論であれば、なるべく出生率を上げて人口減少を抑えるという内容で良いが、今は、既に急激に減少していることに対応していかなければならない状況である。</p> <p>国が出生率1.8を目標に掲げている中で、東浦町に実現性があるのか。あったとしても母数が小さく人口が減っていくのはやむを得ない話である。</p> <p>今の状況として、団塊の世代が70代に差し掛かり、20年後は90歳があふれる社会になる。何万人を目指す、人口減少を抑えるというような議論は全く無意味で、これらの状況を踏まえ、東浦町の活力をどこで底上げするのかということが重要であり、そのようなことが基本構想に入っていないならば今やる意味がない。</p> <p>長期的な視点というのは、今既に変化の加速度がついている中で、新たに東浦町の方角性を示さなければ乗り遅れてしまうという点であり、これを町民に明確に示していくことが重要である。</p> <p>また、P3にある「ちょうどいい」は本当にちょうどいいのか。そのちょうどいい、ということをはか保つのが記載されるべきで、無いということはちょうどよくないのではないか。何がどうあるからちょうどいいのか、示すべきである。P5では、ちょうどいいと言っておきながら、「まちから活気が失われそうです」とあるのはもはや矛盾している。本来の書き方としては、いかに高齢者を納税者にしていくまちとしていくかが書かれているべきであり、働く場所をいかに創出するのが重要である。仕事をリタイアした方々に働いていただき、納税者にするにより活気が保たれることを大前提にしなければ構想と呼べない。町の活気がしぼんでいくことを構想に謳っては誰</p>

	<p>がそこに明るい未来を描けるのか。</p> <p>そのようなスタンスで、言葉の選び方も含め、やむ得ないことはやむを得ないこととして受け入れ、この町でやれることは何なのかを考え、これまでの延長線上にない、新しい視点を導入した構想とするべきである。</p>
委員	<p>かなり急速に社会状況が変わっていく。介護ロボットの開発など商品化が進んでいる。新しい考え方を議論の中に入れて構想づくりをするべきである。</p>
委員	<p>P10 の土地利用について、都市基盤の整備をして企業誘致を増やすのか、農地を残していくのか、どっちつかずとなっている。</p>
委員	<p>コンパクトなまちといっても、中心に公共施設が集まっているが、町内の端には高齢者が多く、そこからは遠い。地区ごとに拠点があると良い。地区ごとに課題は違うため、地区ごとの計画があると良い。また、事情によって社会に出ていない方もいるため、うまく活用していただければ小さな納税者が増えるのではないかと思う。</p>
委員	<p>自身は、子育てがある程度落ち着き、職場復帰をしているが、そうでない人が多いのが現状。多様な働き方ができるとよい。</p>
委員	<p>基本構想ではもっと夢を持つべき。国の政策もフランスの方式をとればよい。フランスでは子どもを産むほど税金が安くなり、仕事も2週間程度休みをとらなければいけない。そうでもしなければ出生率が上がらない。希望的な観測をもっと入れたほうがいいのではないか。</p>
委員	<p>文化やスポーツに関する内容が構想に入っていないのが残念である。作っていくべき。また、そこにいけばなんとかなる、と思える中心街がない。交通網が充実し、自動運転で町内を好きに動けるといような構想を掲げてはどうかと思う。</p>
委員	<p>P7「あるものを活かしたまちづくりをします」という点では、現在は文化、スポーツで中心になるものがなく、他のまちで活動している人が多い。人と人とのつながりが希薄になっているため、そのような部分を重視する内容があるとよいと思う。</p>
委員	<p>第5次総合計画の際も人口については議論されていた。今回は2040年に向け、1人暮らしの増加、契約社員やパートが増えることによる賃金格差、厚生年金の問題などが議論できればと思う。これまでの活動の経験から言うと、コミュニティは人材づくりである。ほぼ毎日パトロールして、地区の見守りをしており、犯罪は少ない。大きい問題は町全体で取り組み、小さな問題はコミュニティで自分たちで取り組まなければならない。</p> <p>(そのほか活動の紹介)</p>
委員	<p>P7「あるものを活かしたまちづくりをします」に歴史についての</p>

	<p>視点がなく、歴史に重きを置いていない印象。周辺市町より歴史は深いはずである。歴史に力を入れるということは郷土愛を育むことに繋がる。</p> <p>住民意識調査では町の良いところ、悪いところなど多く意見が集まっているため、住民の意見を反映した計画にして欲しい。また、東浦町での持続可能な社会とはどうあるべきか検討するべきである。</p>
委員	<p>マイナス思考ではいけないと思う。まちづくりを考える上で、5年後、10年後人口が減るからどうしましょう、というのではなく、人口が減らないようにするにはどうすればいいのかを考えるべきではないかと思う。人口がプラスになっている自治体もある。人口増は難しいにしても現状維持のために、東浦町に住んでみたいと思ってもらえるにはどのようにすればいいのか、前向きに希望を持って考えていきたい。</p>
委員	<p>今の東浦町の人口のあり方という点では大規模な開発ではなく、それぞれの地区の中で細かい開発が進み人口が増えている。大規模な開発に頼るのではなく、理想的な良い人口の増え方なのではないかと思う。自然と調和しながら、教育、文化など多くの分野と連携しながら開発を進めていくことが良いと思う。</p>
委員	<p>今回の意見を踏まえて次回までに勉強したいと思う。</p>
委員	<p>P8「将来の東浦町の姿」について、端的にまとめられていて良いと思う。ただ、これから支えあうということのも大変である。デイサービスに行っていることや、認知症だということなどを隠して欲しい、人には知られたくないという要望が多い。それが実態である。このような現状を変えていくのは大変であるということを確認していただきたい。</p>
委員	<p>男性も女性関係なく、明るく生活できるまちを作ろうということで活動しており、現在基本構想に書かれている考え方と一緒にある。</p> <p>一点だけ問題として認識しているのは、保育園に入れない、病児保育の受け入れが少ないという点である。刈谷市、大府市では子育て支援でも充実しているという話を聞く。参考にしながら東浦町でも活かしていければよい。</p>
会長	<p>出された意見の中には基本計画で示すべきものもあったと思うが、事務局で整理していただきたい。また、基本構想の位置づけの認識の共有と、なぜ前倒しで策定したのかがより見えるようにしていただけると良い。</p>

## (2) 総合計画審議会における部会構成について

	<p>(千頭聡会長と水尾委員は各部会には所属せずアドバイザーとして助言をする。)</p>
--	--

### (3) 部会長、部会長代理の選任について

会長	事務局から案はあるか。
事務局	条例による定めはないため、事務局より推薦させていただきたい。 第1部会は部会長に成田盛雄委員、部会長代理に鈴木鑑一委員、第2部会の部会長に久米賢治委員、部会長代理に神谷英一委員を推薦する。
(一同)	(異議なし)

## 7 その他

	(委員からの資料請求) <ul style="list-style-type: none"><li>・平成28年度財務書類(統一的な基準による財務書類)</li><li>・地方交付税の算定台帳</li><li>・行政評価外部評価の実施結果についての資料</li></ul>
--	--

## 閉会

町長	20年後の未来をどの程度まで考えられるか、一緒に悩んでいただきたい。人口の増加が発展であるという考え方や、従来のまま右肩上がりでも推移していけばこうなる、といった考え方ではなく、人口減少しても大丈夫な社会を構築するためにどうすればいいのか、ということを考えていただければと思う。新しい活力をどこでまかなうのか、難しい議論にはなるとは思うがよろしくお願ひしたい。
----	--

以上